

# 最近の国際情勢

## —テロ動向と対策—

田 代 安 彦

### 1. 最近の国際テロ動向

ISISは、昨年より国際テロ活動を活発化させており、繁華街やイベントに合わせた犯行、無差別化、大型化、若年層によるものが増えている。わが国に関しては、現実的に国内外で邦人が巻き込まれる可能性が増加しており、わが国をめぐる国内外の経済の観点から、そのようなことがないよう注意が必要になってきている。シリアの混乱を受けて、日本は、2017年5月からシリア難民留学生及び家族を5年間で300人規模の受け入れを表明した。米国では、トランプ政権が誕生した。トランプ大統領誕生後の国際情勢は、刻一刻と激変しつつある。すなわち、中東、ISIS、イラク、トルコ、クルド問題に加え、米国中東政策次第でイスラエルとアラブ問題やサウジアラビアとイラン問題が新たな火種になる可能性がある。

アジア情勢では、北朝鮮の核開発を巡り、韓国が米国のサードミサイルを配備したことで、そのレーダー網が中国本土をカバーするため、中国の猛烈な反対と抗議活動（減韓令または禁韓令と報じられている）が起き、地域の新たな経済的課題が浮上している。一方、北朝鮮の新たな核開発行動は、我が国も含めた地域の安全保障問題として、アジアの経済や貿易にも大きな影響を及ぼす。

欧米では、米国でトランプ政権が発足し、テロ対策と移民、難民問題がリンクされ、新たな米国国内情勢の不安定化が懸念される一方、欧州でもスコットランド独立運動の機運など、地域・民族問題がポピュリズムの台頭という形で、新たな地域の不安定化の火種が起きている。スペインのカタルーニャ独立問題なども、一見テロとは無縁に思えるが、実際には、頻発する欧州でのテロへの不安、被害者意識の高まりが、心理的影響を与えている側面もあると考えられる。

### 2. 過激派組織・指導者とテロ関連事件

#### (1) アルカイーダ

アルカイーダの指導者は、オサマ ビン ラーディンであった。オサマ ビン ラーディン（1967年3月10日～2011年5月2日）は、サウジアラビア出身で、モスク建設などを行うBIN LADIN 財閥創業者の55人の子供のうちの一人であった。母親は、シリア人。オサマ ビン ラーディンは、厳格なイスラム教育を受け、1979年旧ソ連のアフガニスタン侵攻ではサウド王家とともに、ムスリムを支援したが、1989年ソ連の敗退とともに反米に転じ、サウジアラビアのファハド国王時代に国外退去となった。その後、オサマ ビン ラーディンは、スーダンとアフガニスタンおよびパキスタンなどに滞在した<sup>1</sup>。

表1 ビン ラーディンが率いるアルカイーダの関わったとされるテロ事件

1990年	イラク戦争での米軍のサウジ聖地への配備に反対してサウド王家と対立と伝えられる。
1997年	エジプトでのルクソール事件（死者には10人の邦人を含む）
1998年	ケニアとタンザニア米国大使館爆破事件
2001年	9・11米国同時多発事件（死者3,025人、24人の邦人を含む）
2004年	3・11スペイン列車爆破事件（死者191人、受賞者2,000人以上）
2005年	7・7英国ロンドン地下鉄・バス爆弾テロ事件（朝のラッシュ時）（死者56人）以降暫く休止。

#### (2) アルカイーダの流れと後継

##### ① クトープ派

アブドラ・アザーム・ユースフ（1941年～1966年）は、ムジャヒディーンの指導者であり、オサマ ビン ラーディンの師であった。世俗主義に反対してエジプトのナセル大統領に処刑された。

<sup>1</sup> Wikipedia Commons

## ② オsama ビン ラーディン

オsama ビン ラーディン (1957 年～ 2011 年) は、上述のとおり、アルカイダの指導者となった。

## ③ アイマン・ザワヒリー

アイマン・ザワヒリーは、エジプト人の医家出身で学者肌であった。ビン ラーディンとは、パキスタンで会った。ザワヒリーは、カリスマ性にやや欠けるといわれるが、ジハードを唱える<sup>2</sup>。

## ④ アブ・ムサブ・ザルカウウィー

アブ・ムサブ・ザルカウウィー (1966 年～ 2006 年 6 月 7 日) は、ビン ラーディンの下でアルカイダの副司令官だった。ザルカウウィーは、ヨルダン王政打倒やカリフ制の樹立を唱えていた。米軍のイラク攻撃で死亡。2004 年日本人質 3 人事件に関与していた (人質 3 人は開放された)

ISIS は、2006 年以降欧米でのテロはしばらく休止しているとの見方もある。他方で、インドのムンバイ市でムシャヒディーンのテロがあり、2006 年 7 月には 209 名が死亡している。11 月にはホテル他でテロがあり、101 名が死亡している。ISIS の関与が疑われている。

## (3) ISIS (ISIL)

アバクル・バクダディ (1971 年 7 月 28 日～) は、自称カリフ (正当なイスラム後継者) であり、ISIS (Islamic states in Iraq and Syria または al-sharm)、ISIL (Islamic State in Iraq and the Levant) の指導者である。バクダディは、他のアラブ諸国をダーイッシュ (踏みにじるもの) と呼び、国として認めていない。ISIS は、2004 年 6 月 29 日に IS (Islamic states: イスラム国) と名称変更して国家樹立宣言をするも、国連は国として認めていない。

ISIS は、イラクとヨルダンの地固めに集中していたが、2015 年ごろより、下記のような欧米向けテロに関与しはじめている模様である。ISIS による欧米におけるテロ活動が活発化している (表 2 参照)。今後シリアでの米露による ISIS 掃討が進むと、行き詰まりを感じる ISIS は、欧米やアジアでの個別のテロへの関与、さらには、中東やインドネシアなどイスラム圏でのスンニ派による対シーア派攻撃という形での新たな支持層取り付けのためのテロに走る懸念もあり、注意が必要となる。

表 2 ISIS が欧米で関わったとされるテロ事件

2015年11月11日	仏パリ同時多発テロ 死者130名、負傷者300名以上
2016年3月22日	ベルギーのブリュッセル空港と駅でテロ 死者28名以上
2016年7月1日	ダッカのレストラン襲撃事件28人死亡
2016年7月14日	仏ニース花火大会トラック暴走テロ事件 死者82人、負傷者200人以上 チュニジア人犯行
2016年9月17日	米国ニューヨーク州ほか 同時爆破テロ事件 29人負傷 ラハミ アフガニスタン出身米国人犯行 (9月11日国連総会、9月17日サミット予定)
2016年12月19日	ドイツのベルリン市 トラック暴走テロ事件 12名死亡

## 3. フランスでのテロ—欧州で一番移民の多い国—

フランスでは、これまでは移民の就業や就職難および宗教観の違いなどの要因による不満の爆発テロが多く、特定のターゲットを狙うテロが多かった。しかし、2015 年以降のフランスでのテロは、政策的行事やイベント前や繁華街での無差別化・大型化の傾向がみられる (表 3 参照)。

## 4. ドイツにおけるテロ—難民受け入れに寛容なメルケル政権下でのテロ—

ドイツにおけるテロは、難民に寛容な政策をとるにもかかわらず、表 4 によれば、難民系や貧富格差による繁華街での行事における無差別攻撃や犯人の若年化の傾向がみられる。

## 5. 米国トランプ政権の誕生による国際政治情勢の変化と留意点

### (1) 中東政策の注目点

#### ① イランとの関係

トランプ政権誕生で、安倍首相の 2017 年 1 月イラン訪問は見送られた。米国の反イラン政策 (制裁法 10 年延長<sup>3</sup>) 継続で、対イスラエルと対サウジとの関係良化がうかがえる一方、イランとの関係は、欧米との関係改善路線をとってきたイランのロハニ政権<sup>4</sup> を窮地に追い込む可能性があり、中東情勢の新たな火種となる可能性がある。逆に、夏までに課しているマネーロンダリングリストに基づく合意実施が示されれば、イランと米国の関係改善余地もあるが、米国とサウジ、イスラエル関係

<sup>2</sup> Wikipedia Commons

<sup>3</sup> 2016年12月15日議会成立

<sup>4</sup> イラン大統領選2017年5月18日

表3 フランスにおけるテロ事件

No.	日時	場所	テロの状況	被害	犯人と犯行目的
1*	2012年3月11日 15日	ミディ・ピレネー地区 南西部ツールーズ	銃撃事件	兵士3人死亡	モハammad・メラ アルジェリア系仏人アルカ イダ系幹部推定23歳～24歳
2	2012年3月19日		学校襲撃	ユダヤ人生徒他 4人死亡	同上
3	2015年12月	中部東部西部	無差別襲撃事件		イスラム狂信者他
4	2015年1月7日	パリ・シャルリーエブ ド社	本社襲撃編集発行者襲撃	編集者ら12人死亡	イスラム狂信者他 イスラム教 風刺画批判 宗 教者への冒瀆
5	2015年11月13日	パリ (競技場とレストラン)	同時多発		
6**	2015年11月30日	パリ (同上)	自爆・発砲テロ	死者130人以上 負傷者300人以上	IS, モハammad・ラジエブル、 チュニジア人。移住歴10年
7	2016年7月14日	ニース (巴里祭花火大会)	トラック暴走テロ	死者82人 負傷者200人以上	

注：\* 仏大統領選一か月前 \*\* COPE21 (11月30日)

表4 ドイツにおけるテロ事件

No.	日時	場所	テロの状況	被害	犯人と犯行目的
1	2016年12月19日 夜8時	ベルリン カイザー・ ヴルヘルム教会付近	無差別トラック暴走テロ 教会前クリスマス市場に 無灯火突入	12人死亡 約50名負傷一般観 光客	チュニジア人 アニス・アムリ IS犯行声明も個人的感化か？
2	2016年2月	ハノーバー	刃物で殺傷	パトロール警察官	15歳少女 IS感化か？
3	2016年7月18日	南部ベルツブルグ	電車内斧で乱暴 (射殺)	乗客5人負傷	17歳アフガニスタン少年 2015年受入難民
4	2016年7月22日	ミュンヘン	ショッピングセンター 銃乱射	9人死亡	
5	2016年7月24日	南部ロイトリンゲン	シリア難民の 斧傷害事件	2名	
6	同上	南部アンツバッハ	音楽フェス 無差別自爆テロ	15人負傷	シリア・アレppo難民申請却 下モハammad・D28歳ISバグダ ディ信望

出所：The Page 2016年12月24日ほか

が悪化する可能性もある。

## ② イスラエルとアラブの関係

トランプ大統領娘婿クシュナー氏は、ユダヤ人だが、金融政策については同じユダヤ系のひとでも、必ずしも意見は一致していない。しかし、政治的には、プリン安全保障担当補佐官がイスラム教徒に厳しく、極端な親イスラエル政策は、アラブ対イスラエルの問題を起こしかねない。トランプ大統領 / ネタニヤフ イスラエル

首相との会談で「パレスチナとイスラエル 必ずしも2国共存にこだわらない」旨発言したといわれている<sup>5</sup>。

## (2) 米中韓3か国の対北朝鮮をめぐる情勢

### ① 対北朝鮮

2017年3月10日に、韓国朴大統領は、大統領弾劾決議で失職した。このことにより、韓国大統領選挙は、2017年5月9日に行われ、文在寅大統領となった。既に旧政権のもとで、米国 THAAD ミサイルの配備は3

<sup>5</sup> 2017年2月15日

月7日に開始され、南部星州の旧ロッテゴルフ場に搬入開始されており、文在寅大統領選前に配備された<sup>6</sup>。

## ② 中国の対韓政策

これに対し、中国は、抗議行動にでている。限、禁韓令である。これにより、韓流芸能、韓国旅行、韓国最大手の韓国ロッテの中国店舗の閉鎖などがおきている。また、中国は、当然、安全保障上の見地から、THAAD（サード）ミサイルの設置絶対反対の立場を堅持している。

## ③ 北朝鮮の行動

北朝鮮は、長距離ミサイルの実験を続け、今回の長距離ミサイル発射実験では同時に4発のミサイルを発射した。実験継続、新たな武器輸出検討が懸念される。

## ④ 新大統領の韓国の対外政策

一方、韓国の新大統領候補で有力なのは、“文在寅（ムンジェイン）”氏で、親中国、親北朝鮮政策をとる見込みである。

## ⑤ 米国の北朝鮮政策

一方米国は、3/15 原子力空母“カールビンソン”を

釜山に配備している。米国が万が一、北朝鮮を攻撃するような事態になれば、韓国も戦場化してしまうほど危険な状況となり、中国、ロシア、日本は無縁でいられなくなることになる。

## （3） 2017 年度初頭での想定されるシナリオ

2017 年 3 月 21 日発行の SHANGHAI DAILY 紙によれば、アメリカは北朝鮮との衝突に向かっている。他方、中国はアメリカに自制を促し、北朝鮮にも核の挑発を止めるように自制を促している。

アメリカが、中国の軍事脅威拡大阻止も視野に入れていることを起こすこともありえないわけではないが、現状中国の経済発展は目覚ましく、若者の意識も変わりつつある。10 月に共産党大会を控えた習政権は、米国にとっても最大の貿易相手国となっており、今後多くの、緊張緩和にむけた両国の連携が図られると期待したい。

## その他参考資料

- 1) 中東情勢『本当の西アジア』（2016 年度筑紫女学園大学アジア塾講義資料）
- 2) 中国情勢『上海市視察レポート』2016 年 3 月

---

<sup>6</sup> その後文政権は、2017 年 9 月にサードミサイルの追加配備を決め計 6 基が設置されている。